

平成 28 年 2 月 2 日

鹿児島大学病院で肺腫瘍に対する造影 CT 検査を受けた患者さん等へ

(臨床研究に関する情報)

鹿児島大学病院放射線科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録や CT 検査画像等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

肺癌の遺伝子変異と CT 画像所見に関する検討(後ろ向き観察研究)

【研究機関】

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

放射線診療センター 放射線科

【研究責任者】

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

放射線診療センター 放射線科 助教 内匠浩二

【研究の目的】

ゲフィチニブやクリゾチニブなどの分子標的治療薬は、現在の進行非小細胞肺癌の治療において重要な役割を担っており、遺伝子変異の有無を診断することは治療方針を決定する上で重要です。胸部 CT 検査は肺癌の診断に広く行われている検査であり、CT 画像所見により遺伝子変異の有無が診断可能となれば、治療方針決定におい

て重要な情報を得ることが可能となり、臨床的に重要です。遺伝子変異陽性肺癌の CT 画像所見に関する報告がいくつかありますが、いまだ確定的な特徴は得られていません。

この研究の目的は、肺癌の患者さんを対象に、CT 画像所見と遺伝子変異の有無を比較し、検討することです。この研究を行うことにより、CT 画像所見による遺伝子変異陽性肺癌の診断能の向上が期待できます。

【研究の方法】

●対象となる患者さん

この研究は平成 25 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日までの 3 年間に、鹿児島大学病院放射線診療センターにて、肺腫瘍の精査目的に造影 CT が施行され、組織学的に肺癌と診断された方を対象としています。

●診療録（カルテ）から利用する情報

撮像された造影 CT 画像所見を評価し、上皮成長因子受容体（EGFR: epidermal growth factor receptor）や未分化リンパ腫リン酸化酵素（ALK: anaplastic lymphoma kinase）遺伝子変異の有無、腫瘍マーカー値（CEA、SLX）などとの関連を後ろ向きに検討します。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科放射線診断治療

学分野の研究費（使途特定寄付金）で実施します。企業等からこの研究のための寄付は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 放射線診療センター 放射線科

助教 内匠浩二

電話 099-275-5417 FAX 099-265-1106